

乳牛の見かた入門

第16回全日本ホルスタイン共進会

監修：一般社団法人日本ホルスタイン登録協会



進もう、豊かな畜産の未来へ

公益社団法人

中央畜産会

JAPAN LIVESTOCK
INDUSTRY ASSOCIATION

令和7年10月
公益社団法人 中央畜産会

はじめに

5年に一度開かれる全日本ホルスタイン共進会は「乳牛のオリンピック」とも呼ばれ、

昭和26年の第1回神奈川県大会から16回目を迎えます。

今大会では、農業高校等からも全国各地の予選会を突破した

選りすぐりの乳牛が出品されることとなっており、

皆さんの日頃の成果を披露する絶好の機会となっています。

そこで、共進会をきっかけに全国の農業高校と農業大学の皆さんに

乳牛の世界に興味を持ってもらいたい、

そんな思いから私たちは「乳牛の見かた入門」を制作しました。

本書では、乳牛が健康で長い間良質な生乳を生産するためにはどういった体型がよいのか、

「良い牛」とはどんな牛のことなのか、共進会で審査員は牛のどんなところを見ているのかなど、

イラストや写真を交えてわかりやすく解説しています。

本書を手に取りながら共進会を楽しんでいただき、乳牛の魅力を再発見してみませんか。

令和7年10月
公益社団法人 中央畜産会

C O N T E N T S

酪農の歴史	P1
ようこそホルスタインの世界へ 全日本ホルスタイン共進会開催実績	P2
乳牛をもっと知ろう	P3
乳牛の審査標準を知ろう	P5
審査ポイントの全体概要	P7
審査のポイント(各項目、部位の見かた)	P9
未経産牛の評価ポイント	P17

詳しい
大会関連情報は
こちらから▶



HOKKAIDO 2025

第16回
全日本ホルスタイン共進会
北海道大会 開催

酪農の歴史

牛乳が庶民の飲み物となったのは明治時代、文明開化後のことです。1863年に千葉県出身の前田留吉という人が、オランダ人ペローから搾乳や処理の技術を学び、横浜で日本初の牛乳製造販売を行いました。また、明治政府も北海道の開拓に酪農を取り入れていたことから牛乳の栄養価値を宣伝しました。

牛乳の普及が急速に加速したのは日清・日露戦争の時、兵隊が傷病兵の栄養剤として牛乳を飲むようになったことで一般に広まりました。

牛乳は最初、木の桶に入れて、ひしゃくなどで計り売りをしていましたが、流通や品質管理が未発達な時代であったことから腐りやすい牛乳は毎日配達する必要がありました。そのため都心は牛乳店に適した場所とされており、1合(約180ml)のブリキ缶を使用した牛乳の配達が始まると都市部での牛乳流通がさらに拡大していきました。やがて牛乳専用のガラス瓶が登場すると、衛生的に牛乳が届けられる仕組みが整備され、瓶牛乳は日本各地で急速に普及し始めました。

日本の商業酪農は約100年前に誕生し、小学校に学校給食が導入された頃から本格的に発展し始めました。

稲作や畑作に比べて、毎月換金でき、気候にあまり左右されずに安定収入が得られるなどの理由から、急速に酪農家が増加しましたが、当時は稲作や畑作のかたわら2~3頭の乳牛を飼う農家が多く、1965年(昭和40年)で1戸当たりの飼養頭数平均がわずかに3.4頭、全国の生乳生産量も年間約384万トンでした。

その後、日本の経済成長に伴い農村部から都市部へ多くの若者たちが移り、後継者不足をきたす中で、農業全体が合理化や集約・大型化へ向かい、酪農もまた同じ道をたどり始めます。

日本の酪農家戸数は、1963年(昭和38年)のピーク時には約41.8万戸ありましたが、1975年(昭和50年)には約16万戸、10年後の1985年(昭和60年)には約8.2万戸にまで急激に落ち込みました。それ以後も年平均で約4~5%の酪農家が離農し、2024年(令和6年)では約1.1万戸とピーク時から約38分の1まで減少しました。

その反面、1戸当たりの乳牛飼養頭数は増加し続け、日本の酪農規模は酪農先進国のEUの国々に肩を並べるほどになりました。2023年(令和5年)では1戸当たり平均乳牛頭数は107.6頭、生乳生産量が年間約730万トン(令和5年)となっています。

ようこそホルスタインの世界へ

～全日本ホルスタイン共進会～

乳牛の共進会は長い歴史の中で、時と共に変遷を重ね、年を経るごとに盛んに行われてきました。これがすたれることなく、今日まで存続してきた理由は、そのあり方が問われながらも、常に意義や役割が理解され、必要視されてきたからです。

この共進会は、「我が国を代表するホルスタイン種及びジャージー種の資質の向上と酪農業の安定的な進展を目的として、都道府県代表のそれぞれの種牛を一堂に集め、その改良水準を広く示し、現畜を見ながら比較・検討して、将来の改良計画に役立てること」を目的としています。

また、全国の酪農家並びに酪農関係者の親睦・交流の場として極めて有意義な側面を持つと同時に、一般消費者も多数参加することから、牛乳・乳製品の消費拡大や酪農への理解醸成の機会として有効であります。

今回の第16回全日本ホルスタイン共進会も、前回に引き続き、農業高校生等を対象に、乳牛の魅力を伝え、乳牛の理解醸成と人材育成・就農を図るために高等学校特別出品枠を設けております。大観衆の見つめる会場で、全国から参加した生徒たちが一生懸命育てた愛牛と一緒にショールングに立つことは、人生において数少ない夢の舞台ではないでしょうか。

そしてその躍動は同世代の若者たちへの大きな刺激となり、乳牛の魅力を発信するとともに、酪農業の生産基盤の維持、強化につながると期待しています。

全日本ホルスタイン共進会開催実績

大会	開催年	開催県	出品頭数	参加都道府県	参観者数
第1回	昭和26年	神奈川県	157頭	30	10万人
第2回	昭和31年	静岡県	200頭	36	20万人
第3回	昭和36年	長野県	226頭	42	30万人
第4回	昭和41年	福島県	278頭	42	40万人
第5回	昭和45年	愛知県	295頭	44	52万人
第6回	昭和50年	兵庫県	291頭	44	20万人
第7回	昭和56年	群馬県	298頭	46	35万人
第8回	昭和60年	岩手県	297頭	44	38万人
第9回	平成2年	熊本県	293頭	45	64万人
第10回	平成7年	千葉県	298頭	45	84万人
第11回	平成12年	岡山県	297頭	44	66万人
第12回	平成17年	栃木県	303頭	44	69万人
第13回	平成23年	中止 ^{※1}	—	—	—
第14回	平成27年	北海道	374頭 ^{※3}	42	6.6万人
第15回	令和2年	中止 ^{※2}	—	—	—

※1 東日本大震災、福島第一原発事故 ※2 新型コロナウイルス感染拡大 ※3 ジャージー種30頭含む

体型審査とは

乳牛の生理的、機能的形質および長命性と連産性が、体の構造上に現れる違いを見て、効率的で経済的な牛かどうかを正しく見分けるのが体型審査です。酪農経営において「健康で生涯にわたって良く働く牛」つまり、**機能的に優れた牛を「見極める技術」**です。

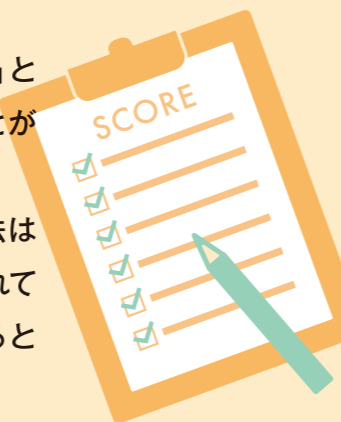


機能的体型のうち最も重要な体型部位としては、**乳器、肢蹄、尻**が挙げられますが、もちろんそれだけではありません。効率的な泌乳には、**牛の大きさや乳用牛の特質、生涯生産性の関連では、骨格の強さや体質の強健さ**がかかわっています。



経済動物として、「経済性の高い体型とはどのような体型か」と問われても、体型得点形質だけで特定の一意的な体型を描くことができませんでした。

この問題を解決したのが「線形式体型審査法」です。この審査方法は乳牛を評価する最も明確な手法であり、世界の主要国で広く実施されており、「**線形評価法**」を活用して**体各部位の特徴を明確**にするとともに、**得点形質と関連づけて体型の良否を判定、評価**します。



線形評価法とは

- 乳牛の体各部位について一方の極端から他方の極端までを1～9の数値スコアを用いて客観的に牛の体を評価する方法です。
- 線形形質は、主要23形質と調査15形質で構成されています。
- 乳牛が持つ体型上の生物学的特徴をより明確に表すことができます。
- 得点形質と関連づけて、体型の良否を判断することができます。
- 種雄牛や雌牛の遺伝評価に利用されます。

主要線形形質(23形質)

線形形質	線形スコア			
	1	5	9	
体貌・骨格	高さ(十字部高)	極度に低い	中等度	高い
	胸の幅	極めて狭い	中等度	極めて幅広い
	体の深さ	極めて浅い	中等度	極めて深い
	肋の構造	開張に欠け方向が立っている	中等度	斜め後方に移行
	BCS*	極めて痩せている	中等度	極めて太っている
	尻の角度	坐骨が極めて高い	わずかに低い	坐骨が極めて低い
	坐骨幅	極めて狭い	中等度	極めて幅広い
肢蹄	後肢側望	直飛	中等度	曲飛
	後肢骨質	極めて不鮮明で丸骨	中等度	極めて鮮明で平骨
	後肢後望	極めて寄る	やや寄る	飛節が並行
	蹄の角度	極めて小さな角度	中等度	極めて大きな角度
	蹄踵の厚さ	極めて薄い	中等度	極めて厚い
	前肢方向	極めて外向	中等度	平行
	歩様	疾病・損傷	僅かな外転歩行 中程度の歩幅	外転しない歩行 広い歩幅
乳器	前乳房の付着	極めて弱い	中等度	極めて強い
	後乳房の高さ	極めて低い	中等度	極めて高い
	後乳房の幅	極めて狭い	中等度	極めて広い
	乳房の懸垂	極めて弱い	やや明瞭	極めて深く明瞭
	乳房の深さ	飛節端より極めて深い	やや浅い	飛節端より極めて浅い
	前乳頭の配置	極めて外付き	中央に配置	極めて内付き
	後乳頭の配置	極めて外付き	やや内付き	内側に付き交叉
	前乳頭の長さ	極めて短い	中等度	極めて長い
乳房の傾斜	極めて後乳区へ傾斜	水平	極めて前乳区へ傾斜	

*ボディ・コンディション・スコア

調査形質(15形質)

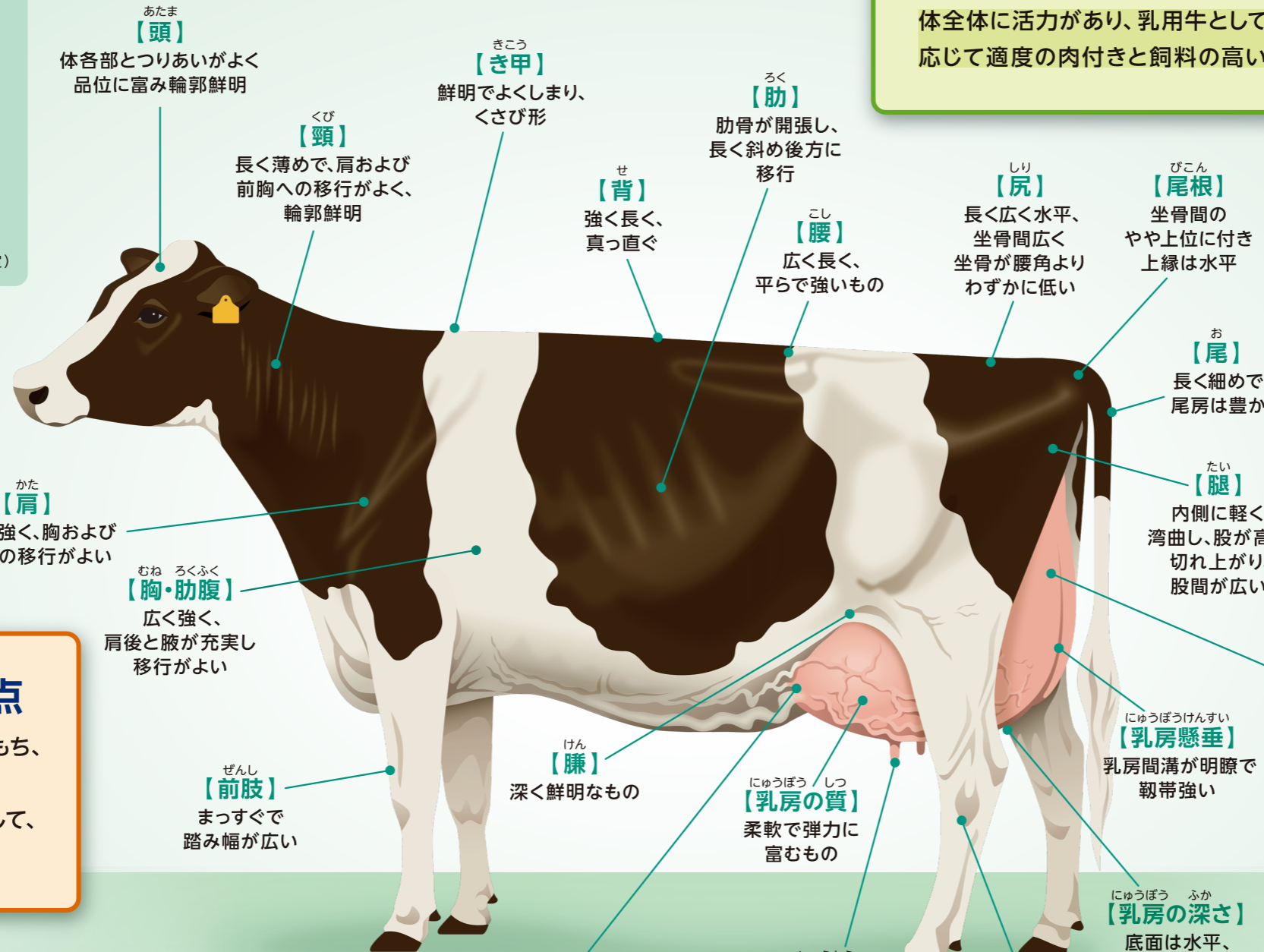
体貌・骨格	前躯の高さ、肩の付着、背腰の強さ、尾根の位置、陰門の角度、寛幅
肢蹄	けいれん肢、後肢浮腫、つなぎ、後肢の踏み、巻き蹄、開き蹄
乳器	底面高、乳房バランス、融合乳頭

審査ポイントの全体概要

ホルスタイン種雌牛標準体型

- 6歳(4~5産)
- 分娩後5ヶ月
- 305日乳量8,000kg以上
- 体高143cm(137~150cm)
- 体重670kg(570~780kg)

(昭和54年制定)



チェックポイント

③ 乳用強健性: 15点

体全体に活力があり、乳用牛としての強さを示し、泌乳の時期に応じて適度の肉付きと飼料の高い利用性を現すもの

チェックポイント

④ 乳器: 40点

乳房の付着が強く、よく発達し、四乳区がつりあい、質がよく、長年にわたり高い生産能力を現すもの

チェックポイント

① 体貌と骨格: 25点

品種としての適度の大きさと強さを持ち、雌牛らしく、姿勢は優美で、各部のつりあいがよく、生き生きとして、品位に富み、性質が温順なもの

チェックポイント

② 肢蹄: 20点

肢の長さは体の深さとつりあい、肢勢は正しく、広く立ち、輪郭鮮明で強く、歩様は確実なもの

ホルスタイン種雌牛審査標準(標点)

① 体貌と骨格 (25)	頭 (2) 肩・背・腰 (7) 胸・肋腹 (6) 尻 (10)
② 肢蹄 (20)	肢 (10) 蹄 (10)
③ 乳用強健性 (15)	頸・き甲・肋・膝・腿 (12) 皮膚・被毛 (3)
④ 乳器 (40)	前乳房 (7) 後乳房 (8) 乳房の懸垂 (5) 乳房の深さ (9) 乳房の質 (3) 乳頭 (8)

1 体貌と骨格 (25点) 頭(2) / 肩・背・腰(7) / 胸・肋腹(6) / 尻(10)

体貌は体の姿、形を。骨格は骨格構造を見る。

姿勢は優美で

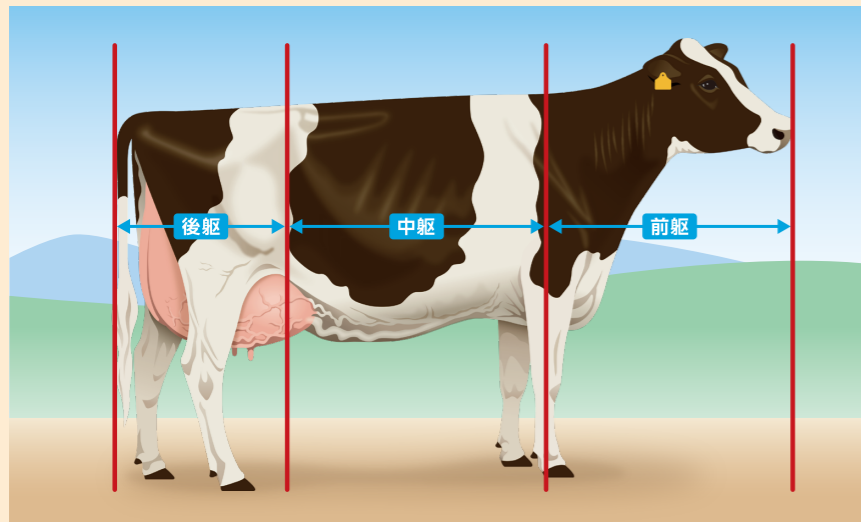
繊細で弱々しいという意味ではなく、体質強健で雌牛らしく優しく美しい姿をいう。

各部のつりあいがよく

前、中、後軀(頭、頸、胴、尻)間、体軀と肢、体軀と乳房間のつりあいをいう。体のつりあいと移行のよい牛は、体を構成する骨格が十分に発達し、よく発達した筋や腱によって各部が強く結合している。

品位に富み

品位のよさは頭頸部に現れる。



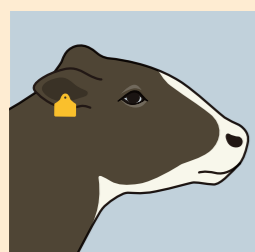
- 前軀(ぜんく) 「頭」から「き甲部」
- 中軀(ちゅうく) 「き甲部」から「十字部」
- 後軀(こうく) 「十字部」から「坐骨端」

1 体貌と骨格 頭 (2点)



- 長さは中等で、輪郭の鮮明なもの
- 額は広く適度にくぼみ、鼻梁はまっすぐで、眼は生き生きとして大きく、まぶたは薄く、温和で、耳は中等の大きさで形と質がよく、機敏に動き、鼻鏡は広く、鼻孔は大きく、下顎は強く鮮明なもの

× 好ましくない頭



粗野な頭
鼻梁が盛りあがっている。

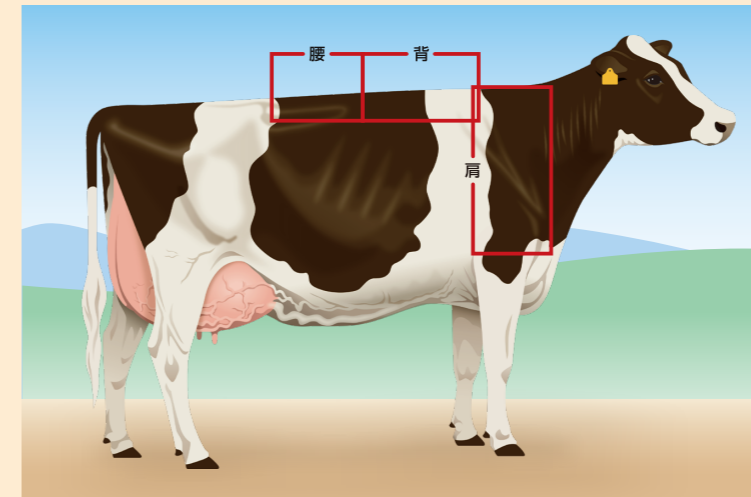


弱い頭
下顎の発達が悪い。



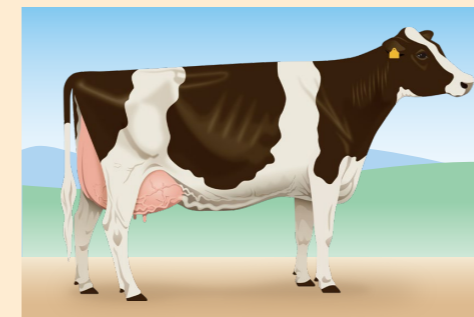
短い頭
頭が短い牛は体軀もコンパクトになりがち

1 体貌と骨格 肩・背・腰(7点)



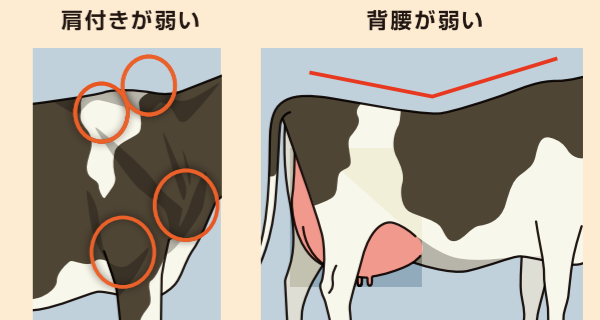
- 肩(かた) 長さは中等で、付着がよく、胸及びき甲への移行がなめらかで、肩後はよく充実し、中軀との結合のよいもの
- 背(せ) 強く、まっすぐで長く、棘突起がよく現れるもの
- 腰(こし) 横突起はよく発達し、広く、長く、ほとんど平らで強いもの

○ 肩付きが良く、背腰が強い牛



- 肩付きがよく、顎から肩、肩から胴への移行が滑らか
- 背線はまっすぐで強い

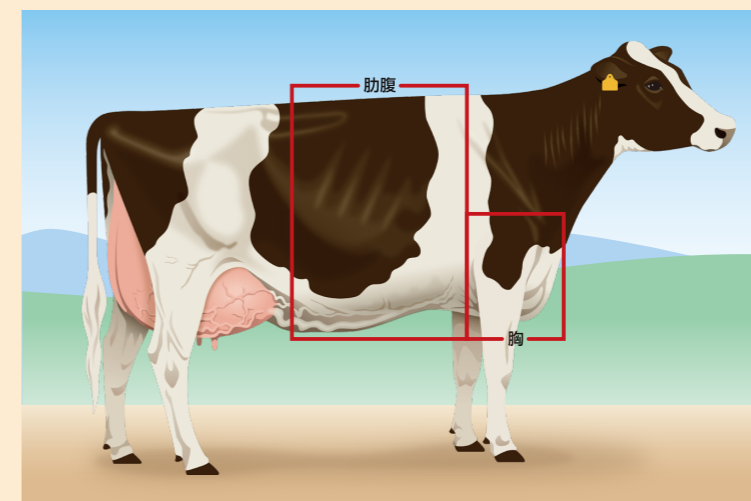
× 肩の付着と背腰の弱い牛



肩付きが弱い

背腰が弱い

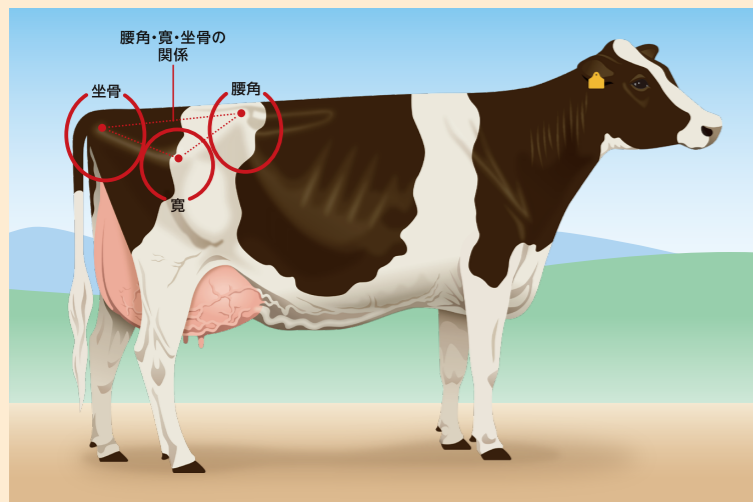
1 体貌と骨格 胸・肋腹(6点)



- 胸(むね) 深く、胸底は広く、腋の充実しているもの
- 肋腹(ろくふく) 深く、強く支えられ、腹は後方へ深く、広がっているもの

審査のポイント(各項目、部位の見方)

① 体貌と骨格 尻(10点)



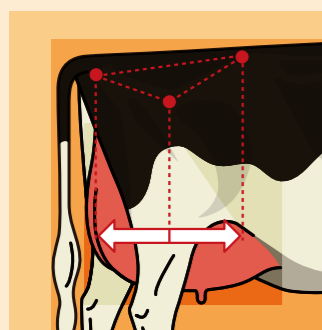
腰角から坐骨にかけて適度に傾斜し、長く広く充実したもの

- **腰角(ようかく)**
広く、背腰とほとんど水平で、粗大でなく適度に現れるもの
- **寛(かん)**
幅広く、腰角と坐骨端からほぼ等距離で、適度の高さに位置するもの
- **坐骨(ざこつ)**
坐骨間が広く、腰角よりやや低く、輪郭鮮明で、臀(でん)は平らで広いもの

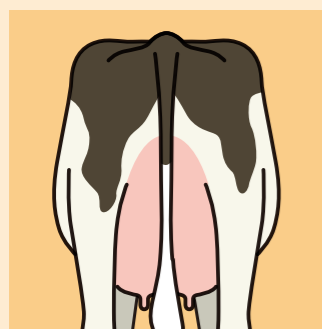


- **尾根(びこん)**
坐骨間のやや上部に形よく位置し、上縁はほとんど水平なもの
- **尾(お)**
長く、次第に細く、尾房はつりあいがよく、豊かなもの
- **陰門(いんもん)**
ほぼ垂直に位置するもの

○ 好ましい尻

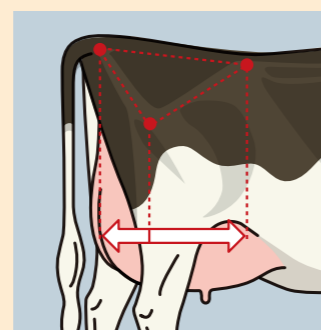


- 側望して長く、腰から尾根にかけて上面はほぼ水平
- 坐骨は腰角よりわずかに低い
- 腰角・寛・坐骨の位置関係が理想的

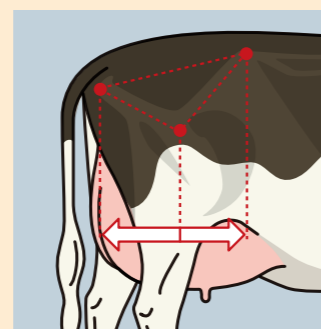


- 後望して、幅広く充実
- 尻の上面は水平
- 尻全体の輪郭が鮮明

× 好ましくない尻



- 寛の位置が極めて後方
- 腰角・寛・坐骨の位置関係が悪い
- 坐骨が腰角よりも高い(逆尻)
- 尻長が短い
- 尾根の付き方が深い



- 寛の位置が低い
- 腰角・寛・坐骨の位置関係が悪い
- 坐骨が腰角よりも極端に低い(斜尻)
- 尻長が短い

② 肢蹄(20点) 肢(10) / 蹄(10)

肢蹄の良し悪しは持久力に強く関係し、ひいては能力にも影響を与える。

肢の長さ

体の深さとつりあったもので、胸深と肢の長さの比率は、55対45が望ましい。

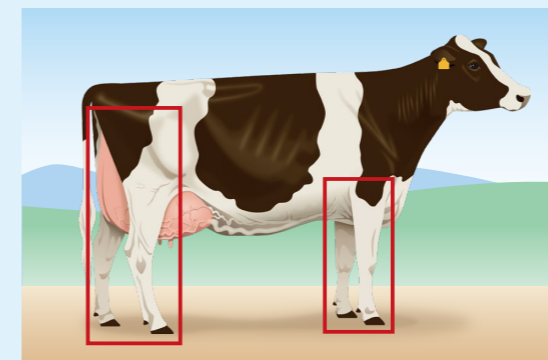
肢勢は正しく

前肢はまっすぐで踏み幅が広く、後肢の側望は直飛や曲飛、あるいは前踏みや後踏みでないこと。また後肢の後望は肢間が広く、まっすぐであって、飛節が寄ったり蹄尖が外向しないこと。肢勢は機能的な体型を求める上で、極めて大切である。

歩様は確実

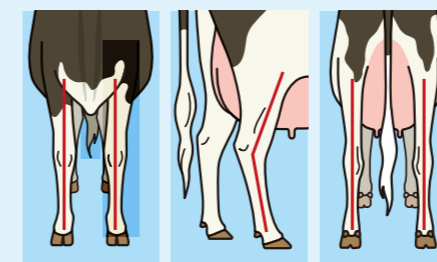
腰や飛節が揺れたり、つま先を引きずったり、外向肢勢をとらない悠然とした歩き方をいう。

② 肢蹄 肢(10点)



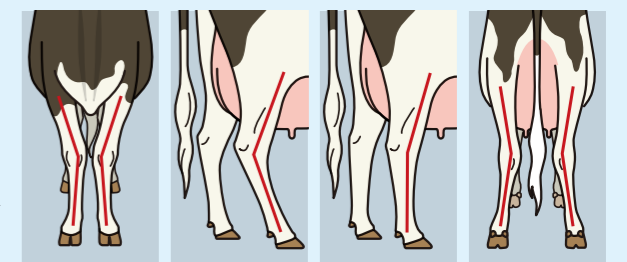
- **前肢(ぜんし)**
まっすぐなもの
- **後肢の踏み(こうしのふみ)**
寛から下ろした垂線が蹄の中間にあり、後望して肢間が広く、ほぼまっすぐなもの
- **飛節・管(ひせつ・かん)**
飛節は鮮明で、適度な角度と幅があり、管は平たくよくしまり、腱は明らかに現れるもの
- **繋(つなぎ)**
中等の長さで、強く、弾力があるもの

○ 好ましい肢勢



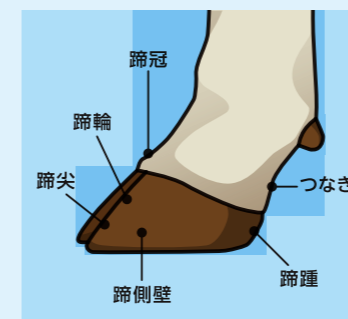
- 肢勢正しく、前肢の踏み幅も広い
- 後肢は輪郭鮮明
- 飛節は幅広く適度に角度をもつ
- 管は平骨で骨量に富む
- 繋も強い

× 好ましくない肢勢



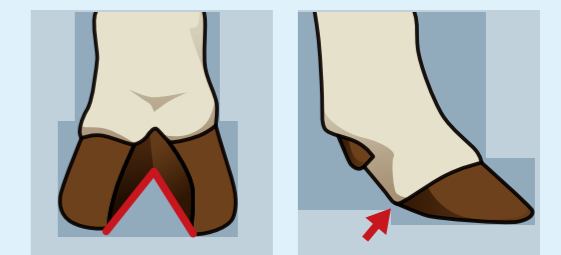
(前肢)X脚 曲飛 直飛 (後肢)X脚

② 肢蹄 蹄(10点)



- **角度(かくど)**
適度な角度を持ち、蹄底が平らなもの
- **大きさ**
形よく幅があり、蹄踵(ていしょう)はほどよい厚さで趾間(しかん)のしまりのよいもの
- **質(しつ)**
光沢があり緻密なもの
- **蹄冠部(ていかんぶ)**
よくしまり鮮明なもの

× 好ましくない蹄



開き蹄 蹄踵が薄い蹄

3 乳用強健性(15点) 頸・き甲・肋・膝・腿(12) / 皮膚・被毛(3)

エサを乳に換える生理機能、それを体型上に現す特徴をいう。

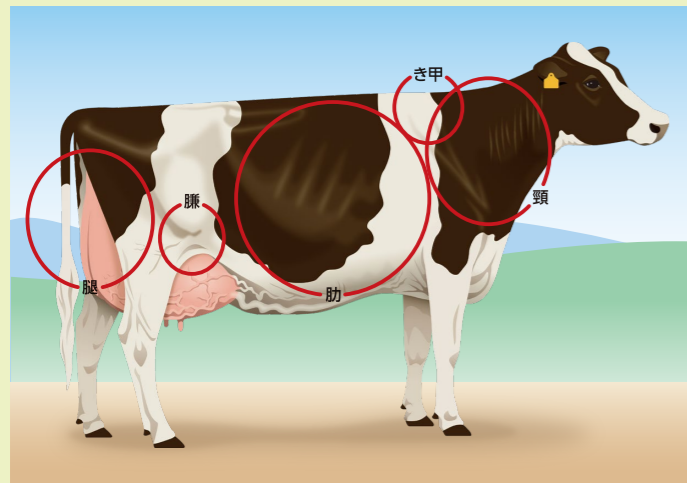
体全体に活力があり、乳用牛としての強さを示す

全体の輪郭が鮮明で、生き生きとした活力があり、肋がよく開張して、強さを伴った鋭角的な牛のことをいう。

泌乳の時期に応じて適度の肉付

飼料を乳に換える能力に優れた牛は、泌乳最盛期には余分な肉付きがなく、全体に角張った感じを与えるものである。このような牛を鋭角的な牛というが、瘦せて骨張ったひ弱なものとははっきり区別する必要がある。ボディ・コンディション・スコアの考え方と共通する。

3 乳用強健性 頸・き甲・肋・膝・腿(12点)

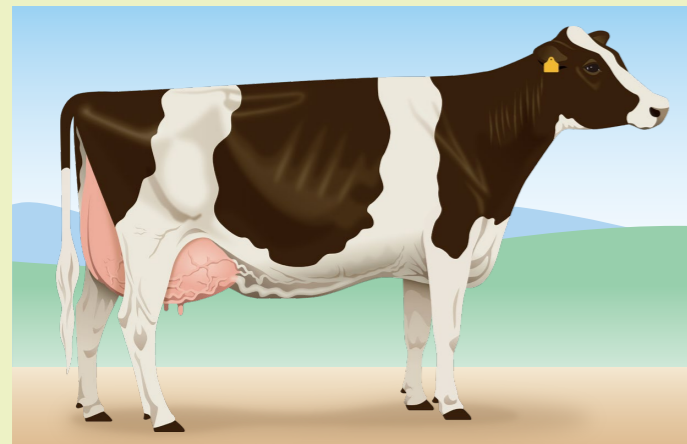


- 頸(くび) 長く、薄めで、肩と胸へなめらかに移行し、咽喉、胸垂の輪郭が鮮明なもの
- き甲(きこう) 肩甲骨の上縁とそれよりやや高め、棘突起がほどよくさび形となるもの
- 肋(ろく) 肋骨間が広く、肋骨は幅広く、平たく、長いもの。前肋はよく張り、後肋は斜め後方によく開張したもの
- 膝(けん) 深く、鮮明なもの
- 腿(たい) 外側は平たく、適度に充実し、後望して股間が広く、内側に軽く湾曲し、よく切れ上がっているもの

3 乳用強健性 皮膚・被毛(3点)

- 皮膚(ひふ) ゆとりと弾力があり、薄めなもの
- 被毛(ひもう) 細密で光沢のあるもの

○ 乳用強健性に富んだ牛



- 体全体が輪郭鮮明
- 伸び伸びとして鋭角的
- 頸は薄め
- 棘突起がよく発達
- 肋はよく開張して適度に深い
- 皮膚被毛も良好

4 乳器(40点) 前乳房(7) / 後乳房(8) / 乳房の懸垂(5) / 乳房の深さ(9) / 乳房の質(3) / 乳頭(8)

乳牛の生命で、その良否は生涯能力や寿命を左右し、牛の価値を決定づける。

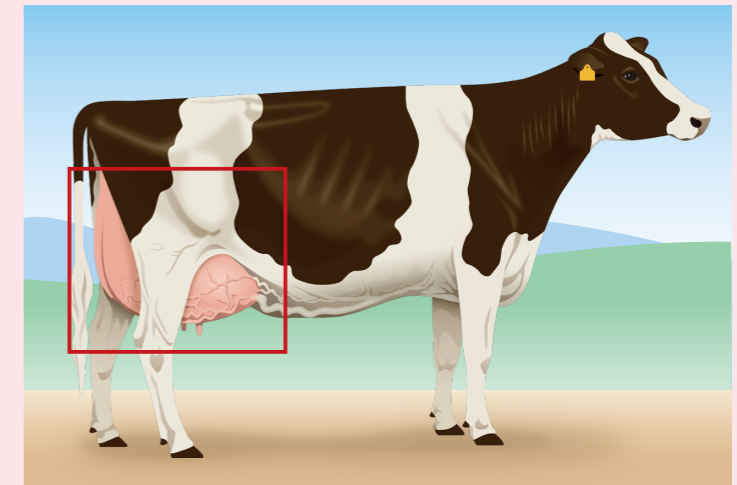
外国でも **"no udder, no cow"** といわれ、乳器を最優先して改良が続けられてきた。

付着が強く

付着のよし悪しが生産期間や生涯乳量を大きく左右する。

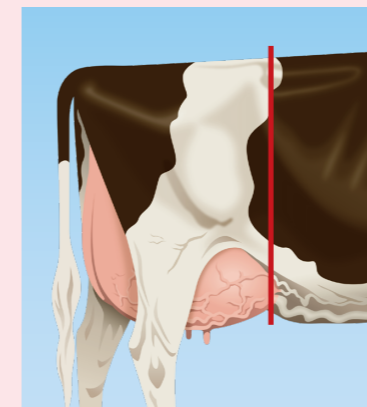
長年にわたり高い生産能力

乳牛の最終的価値は生涯生産乳量で決まる。

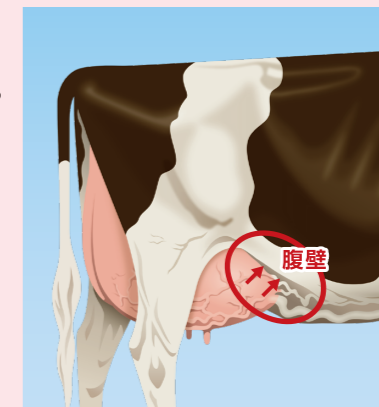


4 乳器 前乳房(7点)

腹壁に強く付着し、長さは中等で、適度の容積があるもの

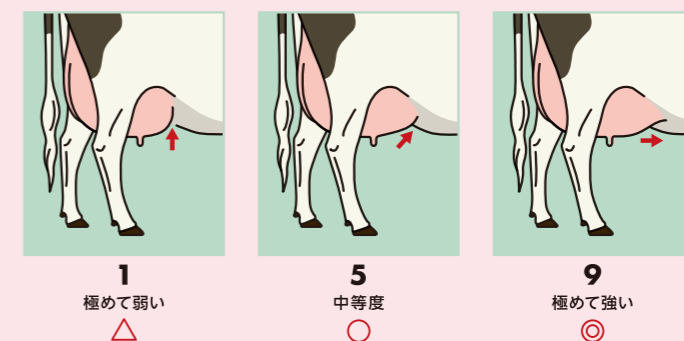


■ 前乳房は腰角から下ろした垂線よりやや前方から乳房の長さは尻長と関連深い



■ 付着面は腹壁に広く、強く付着し、適度の容積をもつ

前乳房の付着(線形スコア)



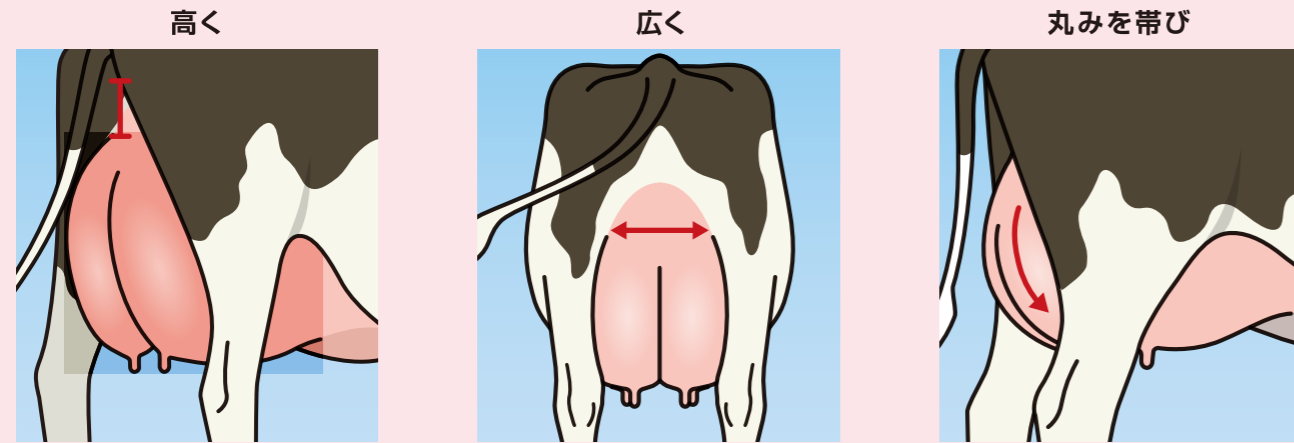
1 極めて弱い
△

5 中等度
○

9 極めて強い
◎

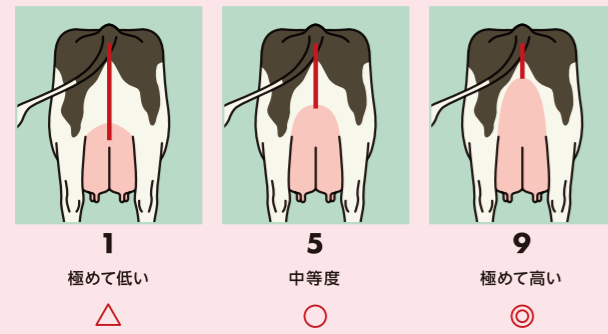
4 乳器 後乳房(8点)

高く、広く、強く附着し、上方から下方にかけて一定の幅をもち、わずかに丸みを帯びているもの

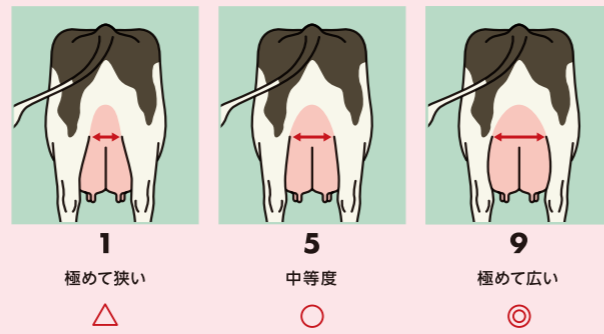


後方へわずかに丸みを帯びている

後乳房の高さ(線形スコア)

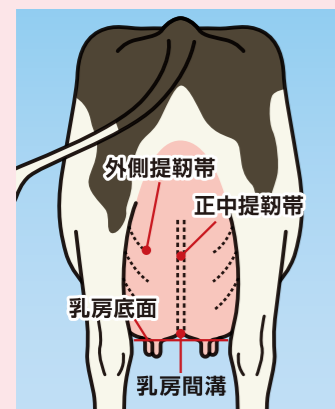


後乳房の幅(線形スコア)



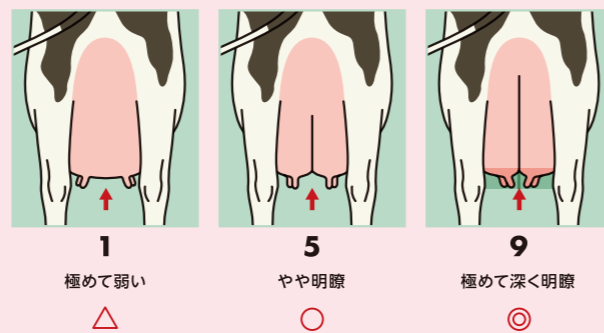
4 乳器 乳房の懸垂(5点)

乳房を左右に二等分する間溝が明瞭に現れ、靱帯の強いもの



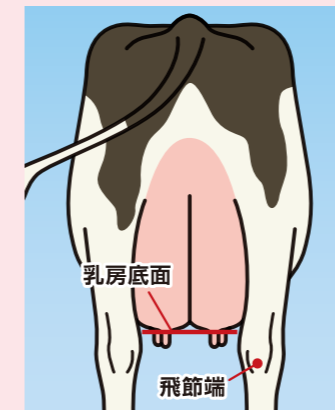
- 正中提靱帯の強さは乳房間溝と乳房底面により判定
- 乳房間溝が明瞭に現れていること

乳房の懸垂(線形スコア)



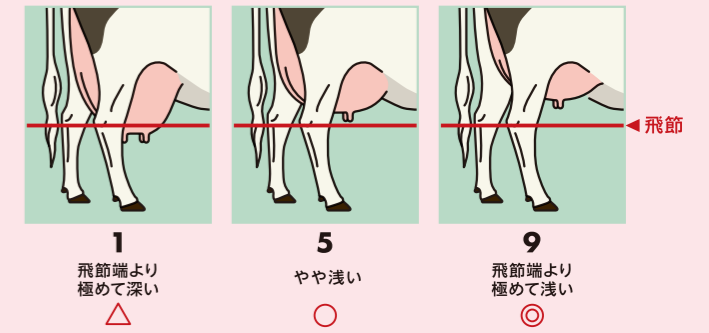
4 乳器 乳房の深さ(9点)

底面が水平で、飛節端よりやや高いもの



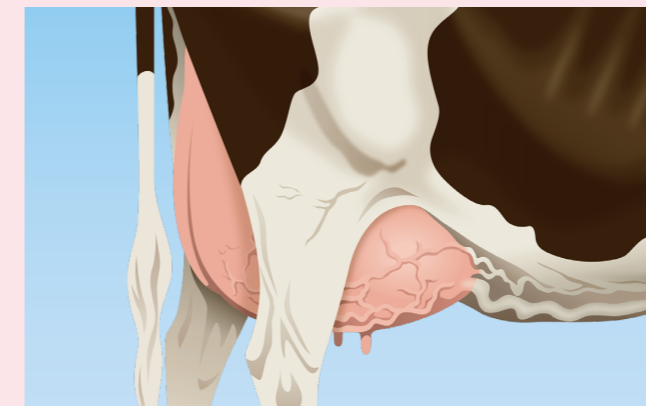
- 乳房底面は前後、左右乳区ともに水平で、飛節端より高い
- 乳房底面は搾乳の作業性に加え、損傷事故などを考えると飛節より下がってはならない

乳房の深さ(線形スコア)



4 乳器 乳房の質(3点)

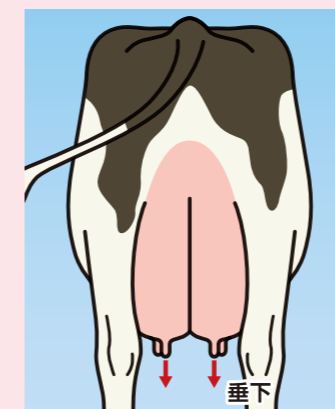
柔軟で、弾力に富み、搾乳直後はよく収縮するもの



- 皮膚は淡桃色で薄くしなやか
- 被毛は柔らかな短毛
- 乳房の実質は柔らかく触審して手のひらに吸い付く感じのもの

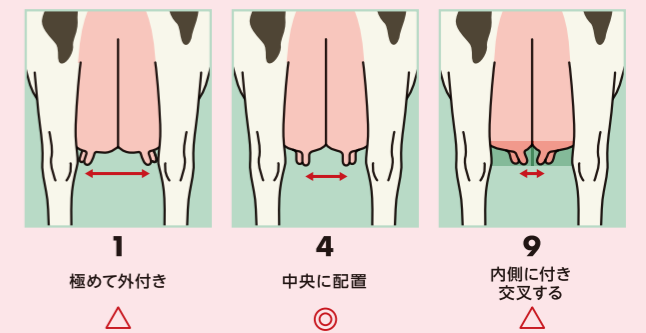
4 乳器 乳頭(8点)

太さと長さが適度で、よく揃い、円筒形で、各乳区の中央に配列し、垂下しているもの



- 長さは5cm程度
- 大きさは大人の親指大
- 形は円筒状
- 各分房の中央に位置
- 真っ直ぐに垂下
- 前後乳頭が平行
- 弾力あり、搾りやすい

後乳頭の配置(線形スコア)



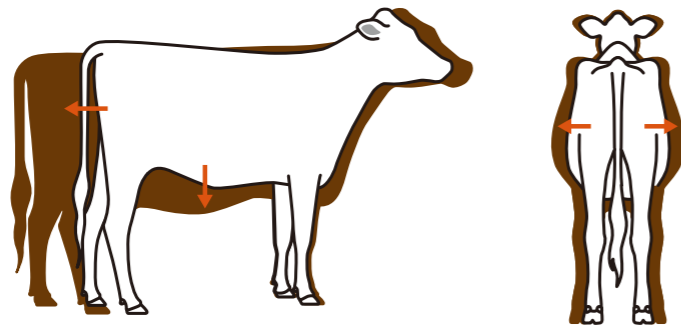
未経産牛の評価ポイント

牛を見るときは(未経産)

ゲノミック評価が実用化されたことにより、酪農経営を行う上で遺伝的に優れた後継牛を、早い段階で選抜することが可能になりました。

しかし、子牛の発育速度は遺伝的な要素の他に、給与される飼料や環境等の外因によって左右されるので一定ではありません。しかも、発育の過程で「**体各部位により異なる発育過程をたどる**」ということを知ることが大切です。生まれたときは、肢だけが長くても、月齢が進むにつれて各部位が発達して立派な体躯になっていきます。

したがって子牛を見分けるためには、子牛の標準的な発育や骨格の発達、繁殖・生理機能の発達過程等をよく理解して、体の構造に対する知識と経験を積み重ねることが大切です。



成長過程における部位の見分け方

1. 成長するにつれて良くなる部位

体の深さや幅、尻の幅など。
体高や十字部高などに比べて成熟が遅れるため、
子牛においては若干の許容をもって見る。

2. 成長するにつれて悪くなる可能性のある部位

肢蹄、肩、背腰などで、子牛の時期から弱いものについては厳しく評価する。

3. 成長してもあまり変わらない部位

顔の輪郭や品位、資質など。
また、遺伝的な欠陥である曲顔、絞口、受け口、曲尾なども変化しないため、
注意が必要である。

好ましい子牛

1. 月齢に応じて伸び伸びと発育していて、体全体のバランスがよいもの。
2. 品位、資質がよいもの。
3. 健康で活気があり、性質のよいもの。
4. 背腰が強く、尻の形状がよいもの。
5. 四肢と蹄が強いもの。
6. 乳用強健性に優れたもの。
7. 乳器が将来よくなると期待されるもの。

未経産牛のジャジング

未経産牛で評価する形質はほとんど成牛と同じである。

1. **体貌と骨格**：骨格と全体的なスタイルとバランスの組み合わせ。
2. **肢 蹄**：成牛と同じ見方。
3. **乳用強健性**：伸張があって鋭角的であり、粗野を感じさせない平らな骨をもっている。
また、分娩を控えている牛はいくらか余分なコンディションがゆるされる。

※乳房形質がないことから、参考としてホルスタイン種審査標準(雄牛)が参考になる。
体貌／骨格40%、肢蹄35%、乳用強健性25%

公益社団法人中央畜産会の主な業務内容

育てる 畜産経営者や指導者の育成



- 畜産経営者や指導者を対象としたスキルアップのための研修会を開催
- 総括畜産コンサルタント、農場HACCP審査員の資格付与、農場HACCP認証
- 後継者の育成や新規就農者の参入促進、地域の中核的な担い手育成のための研修会
- 高校生を対象にした、獣医師養成のための修学資金の給付

支える 畜産経営の支援



- 経営診断の手法づくりとマニュアルの作成
- 家畜伝染病発生時の経営再開支援や甚大な自然災害からの復興支援
- 全国の畜産経営の実態調査と経営指標づくり
- 畜産経営の規模拡大、省力化・機械化を支える畜産施設・機械導入の支援
- 経営に必要な資金調達や低利の借換資金の融通による経営改善支援

守る 家畜防疫の推進



- 地域一丸となった家畜防疫活動の推進
- 家畜伝染病に備えた防疫演習の実施
- 家畜に対するワクチン接種の推進や重大な家畜伝染病対応のためのワクチン備蓄
- 家畜衛生向上のための各種支援

広める 畜産に関する情報発信



- 優れた畜産経営の表彰・成果の普及
- 出版物やインターネットによる最新の畜産技術や畜産経営の紹介
- 畜産をわかりやすく紹介する映像の制作
- 国産畜産物の国内外へのPR活動

畜産経営・技術・衛生等のご相談は下記の畜産会組織へ

- | | |
|----------------------|----------------------|
| 一般社団法人 北海道酪農畜産協会 | 一般社団法人 神奈川県畜産会 |
| 公益社団法人 北海道家畜産物衛生指導協会 | 公益社団法人 新潟県畜産協会 |
| 一般社団法人 青森県畜産協会 | 公益社団法人 富山県畜産振興協会 |
| 一般社団法人 岩手県畜産協会 | 公益社団法人 石川県畜産協会 |
| 一般社団法人 宮城県畜産協会 | 一般社団法人 福井県畜産協会 |
| 公益社団法人 秋田県農業公社 | 公益社団法人 山梨県畜産協会 |
| 公益社団法人 山形県畜産協会 | 一般社団法人 長野県畜産会 |
| 公益社団法人 福島県畜産振興協会 | 一般社団法人 岐阜県畜産協会 |
| 公益社団法人 茨城県畜産協会 | 公益社団法人 静岡県畜産協会 |
| 公益社団法人 栃木県畜産協会 | 公益社団法人 愛知県畜産協会 |
| 公益社団法人 群馬県畜産協会 | 一般社団法人 三重県畜産協会 |
| 一般社団法人 埼玉県畜産会 | 一般社団法人 滋賀県畜産振興協会 |
| 公益社団法人 千葉県畜産協会 | 公益社団法人 京都府畜産振興協会 |
| 公益社団法人 東京都獣医師会 | 公益社団法人 京都府家畜産物衛生指導協会 |

- | | |
|------------------------|----------------------|
| 一般社団法人 大阪府畜産会 | 公益社団法人 福岡県畜産協会 |
| 一般社団法人 兵庫県畜産協会 | 公益社団法人 佐賀県畜産協会 |
| 一般社団法人 奈良県畜産会 | 一般社団法人 長崎県畜産協会 |
| 公益社団法人 畜産協会わかやま | 公益社団法人 熊本県畜産協会 |
| 公益社団法人 鳥取県畜産推進機構 | 公益社団法人 大分県畜産協会 |
| 公益社団法人 島根県畜産振興協会 | 公益社団法人 宮崎県畜産協会 |
| 一般社団法人 岡山県畜産協会 | 公益社団法人 鹿児島県畜産協会 |
| 一般社団法人 広島県畜産協会 | 公益社団法人 鹿児島県畜産物衛生指導協会 |
| 公益社団法人 山口県畜産振興協会 | 公益財団法人 沖縄県畜産振興公社 |
| 公益社団法人 徳島県畜産協会 | |
| 公益社団法人 香川県畜産協会 | |
| 公益社団法人 愛媛県畜産協会 | |
| 一般社団法人 高知県畜産会 | |
| 一般社団法人 高知県肉用子牛価格安定基金協会 | |

畜産関係団体のリンクはこちら

「令和7年度全日本ホルスタイン共進会活用事業」解説書作成委員

- | | | | |
|-------------------------|--------|----------------------|-------|
| 一般社団法人日本ホルスタイン登録協会 審査委員 | 植原 友一郎 | 北海道ホルスタイン農業協同組合 登録部長 | 福田 幸雄 |
| 一般社団法人岩手県畜産協会 家畜改良部長 | 落安 勝 | 独立行政法人家畜改良センター 改良部長 | 藤岡 康恵 |
| 元公益社団法人中央畜産会 | 西野 松之 | 農林水産省畜産局畜産振興課 課長補佐 | 松永 知美 |
| 全国農業高等学校長協会 常務理事 | 平柳 伸幸 | | |
- (順不同・敬省略)

これからの未来のために



暮らしのチカラに、地方競馬

地方競馬の売上げの一部は、畜産振興および地方財政の改善に活用されています。

地方競馬全国協会
<https://www.keiba.go.jp/>



くわしくは、地方競馬情報サイト「KEIBA.GO.JP」からご覧いただけます。

地方競馬は日本の畜産振興と農業高等学校・農業大学校における畜産教育を支援しています。